

特別支援教育研修課の分科会発表資料

〔 研究 主 題 〕

「特別支援学校における一貫性・系統性のある指導の在り方に関する研究Ⅱ」
～知的障害のある児童生徒の指導目標の設定及び指導内容の選択・組織の工夫～

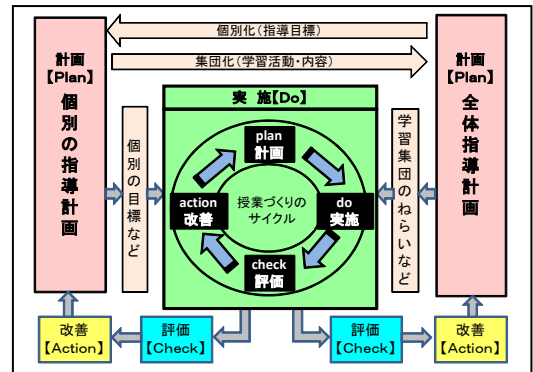
1 研究期間

平成26年度・27年度

2 2年間の研究の概要

(1) 2年間の研究のねらい

実態調査を基に、知的障害のある児童生徒の指導目標の設定及び指導内容の選択・組織についての現状と課題を明らかにする。それらを踏まえ、授業づくりの具体例を提案することで、全体指導計画や個別の指導計画、授業の改善を図り、一貫性・系統性のある指導の充実を目指す。



全体指導計画と個別の指導計画を踏まえた授業づくり

(2) 2年間の研究内容

- ア 特別支援学校における指導目標の設定及び指導内容の選択・組織に関する実態調査
- イ 本課作成の国語，算数・数学のチェックリストの整理・見直しによる活用例の提案
- ウ チェックリスト等を活用した実態把握に基づく指導目標設定の具体例の提案
- エ 指導目標の設定及び指導内容の選択・組織の工夫による授業改善について、研究協力員による検証授業を実施
- オ 指導内容の選択・組織の具体的な方法や内容例の提案

(3) 今年度の研究

ア 実態調査の結果と分析

(ア) 調査の目的

指導目標の設定及び指導内容の選択・組織に関する現状と課題を明らかにするために、全体指導計画，個別の指導計画，授業との関係，評価について実態調査を行った。

(イ) 調査対象

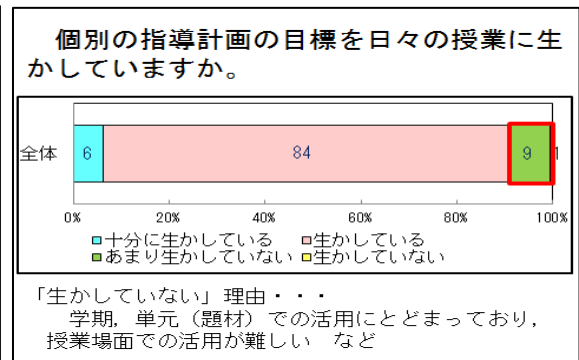
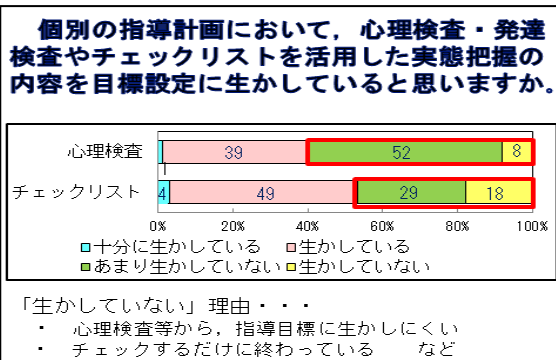
県下の県立特別支援学校 16 校

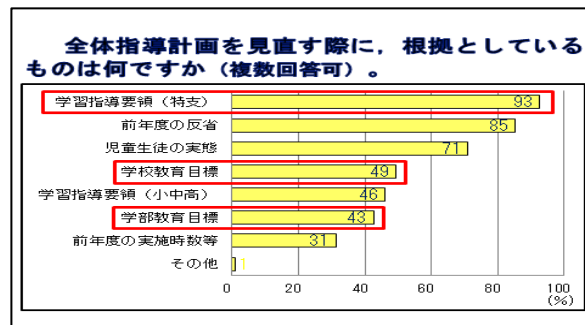
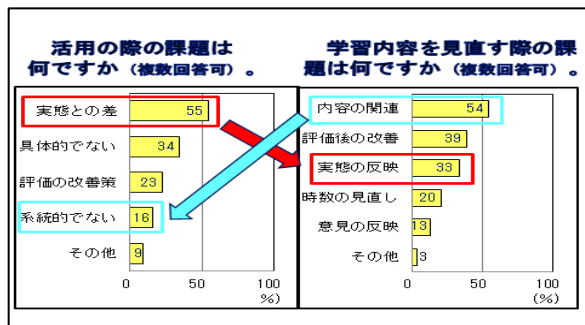
(ウ) 回答者

特別支援学校 16 校の教務主任と担任（小・中・高等部各 4 人）の 192 人

(エ) 調査基準日

平成 26 年 8 月 1 日





イ 実態調査のまとめ

個別の指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実態把握については、教師の主観的な行動観察が中心になっており、客観的な心理検査等による実態把握が必要である。 ○ 指導目標の設定については、授業につながりやすい具体的な目標を設定することが必要である。
全体指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導目標や指導内容・指導方法の確認や評価を行う際に、観点を設定し、共通理解することが必要である。 ○ 指導内容の選択・組織を行う際など、根拠となる学習指導要領や学校教育目標等の共通理解が必要である。

ウ 研究の実際

特別支援学校の授業づくりにおいては、「児童生徒一人一人に身に付けさせたい力は何か。」「何を学ばせるのか。」を考えることが重要。

- 個別の指導計画は、客観性のある的確な実態把握に基づく指導目標の設定が必要。
- 全体指導計画は、どのような児童生徒を育てようとしているのか、どのような指導を行っていくのかなど、指導の根拠として系統性のある計画が必要。

- 実態調査等から、「指導目標の設定の在り方」と「指導内容の選択・組織の工夫」について研究を進めた。
- 1年次は、「指導目標の設定の在り方」を中心に研究を行った。

- 「実態把握」について
- 行動観察
 - 心理検査等
 - チェックリスト
- ※ これらを組み合わせ、多面的に捉える。

- 「指導目標の設定」に当たって重視したいこと
- 「発達の段階を踏まえた設定」
 - 「学習の履歴を踏まえた設定」
 - 「設定した目標を教師間で共通理解すること」

3 まとめ

(1) 1年次研究のまとめ

- 実態調査により、各学校の指導目標の設定及び指導内容の選択・組織に関する課題が明らかになった。
- 指導目標設定の具体例を示すことができた。

(2) 2年次研究に向けて

- 指導内容の選択・組織の工夫について明らかにする。

【平成26年度調査研究発表会】
第7分科会（特別支援教育）

特別支援学校における一貫性・系統性のある指導の在り方に関する研究Ⅱ
～知的障害のある児童生徒の指導目標の設定及び指導内容の選択・組織の工夫～

鹿児島県総合教育センター

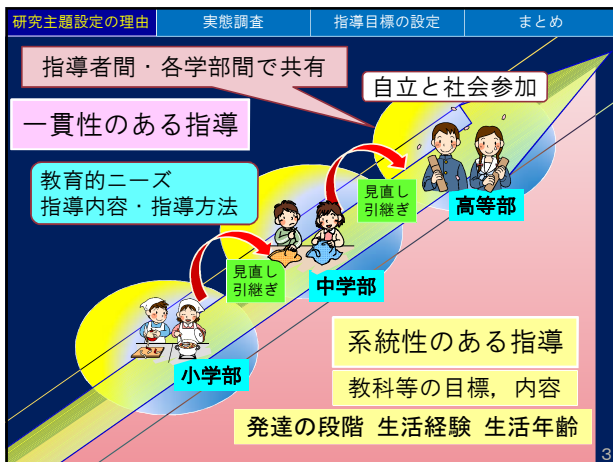
1

研究主題設定の理由 実態調査 指導目標の設定 まとめ

発表内容

- 1 研究主題の設定について
- 2 実態調査について
- 3 実態把握に基づいた指導目標の設定について
- 4 まとめ

2



研究主題設定の理由 実態調査 指導目標の設定 まとめ

一貫性・系統性のある指導

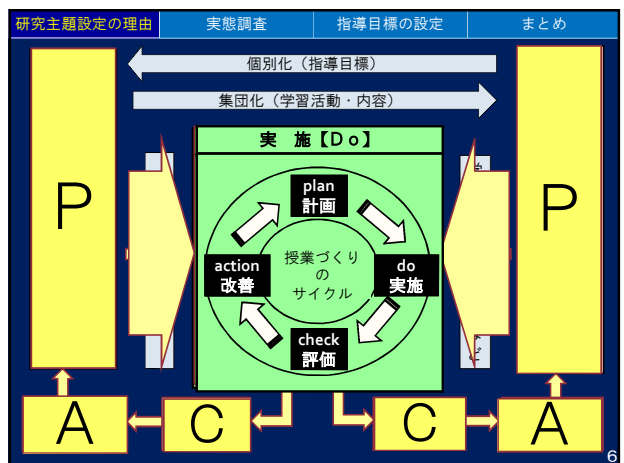
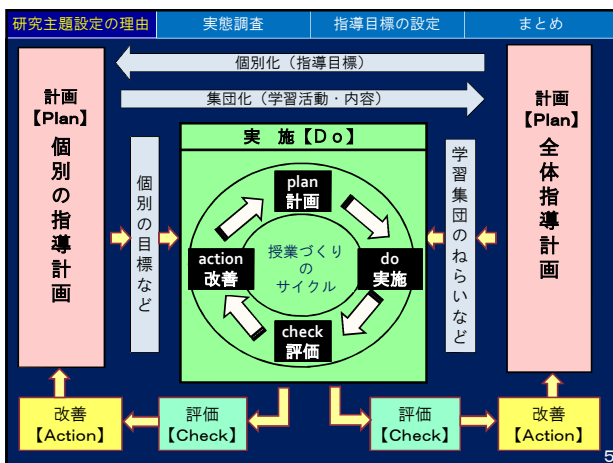
一貫性

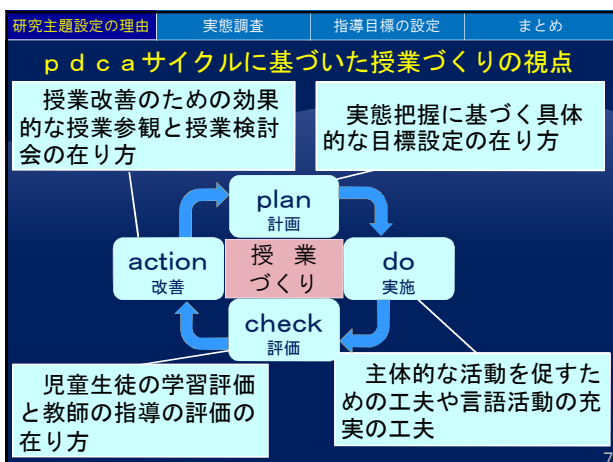
入学から卒業後までを見通した長期的な視点で、一人一人の教育的ニーズや指導内容・指導方法などを明らかにし、指導者間及び学部間で共有すること

系統性

各教科等の目標や内容を、発達の段階や生活経験、生活年齢などを踏まえて設定すること

4





研究主題設定の理由 実態調査 指導目標の設定 まとめ

前次研究の成果と課題

「成果」

- 「授業づくりの視点」の提案
 - ・ 学習評価と指導の評価の提案
 - ・ 効果的な授業参観と授業検討会の提案

「課題」

- 的確な実態把握に基づいた指導目標の設定, 指導内容の選択・組織の工夫

8

研究主題設定の理由 実態調査 指導目標の設定 まとめ

【目的】

指導目標の設定及び指導内容の選択・組織に関する現状と課題を明らかにする。

【対象】 県立特別支援学校 全16校 192人
教務主任と担任 (小・中・高等部各4人)

【内容】

- 個別の指導計画について
- 全体指導計画について
- 全体指導計画と個別の指導計画, 授業との関係について
- 評価について

平成26年8月1日実施

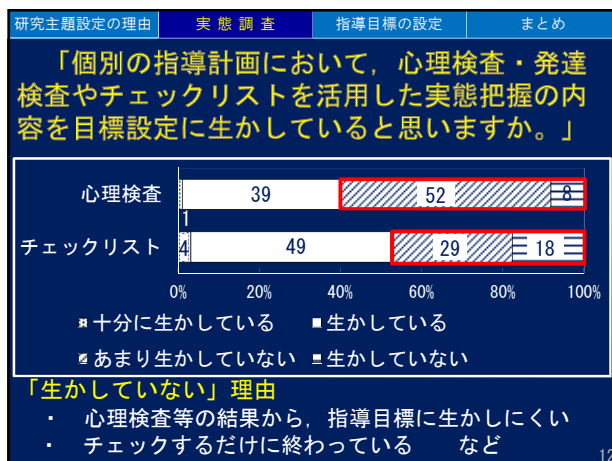
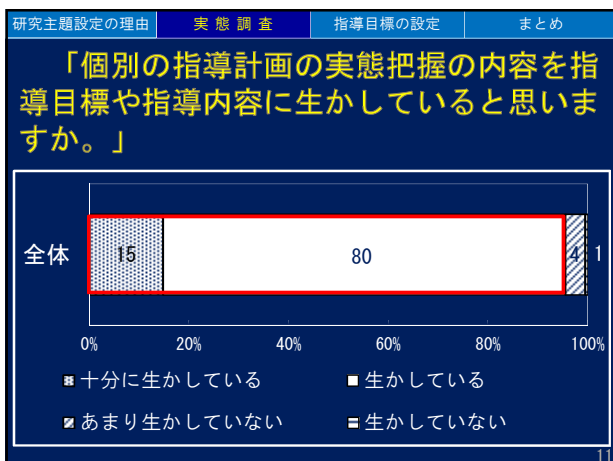
9

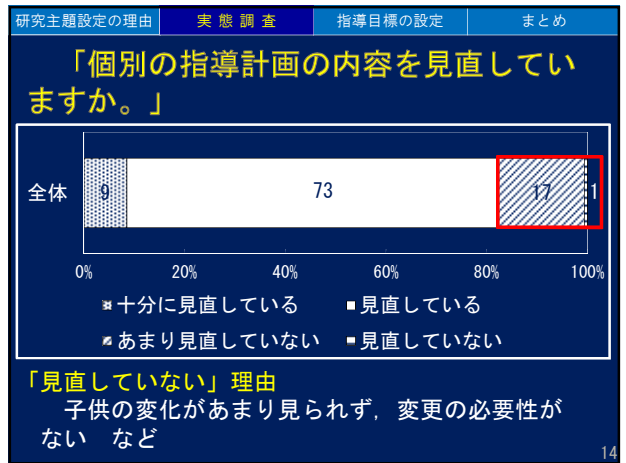
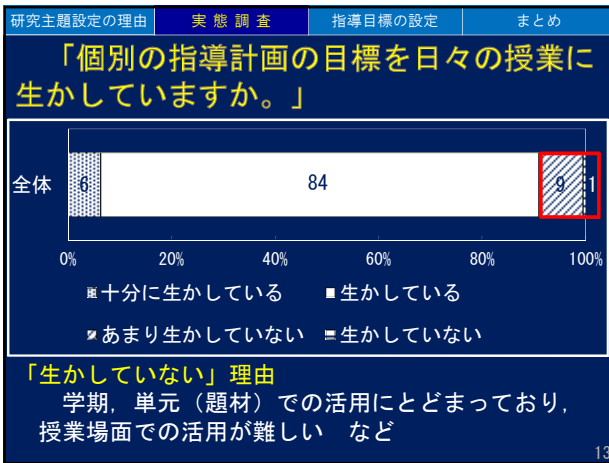
研究主題設定の理由 実態調査 指導目標の設定 まとめ

調査内容 I

「個別の指導計画」について

10





研究主題設定の理由 実態調査 指導目標の設定 まとめ

【個別の指導計画】

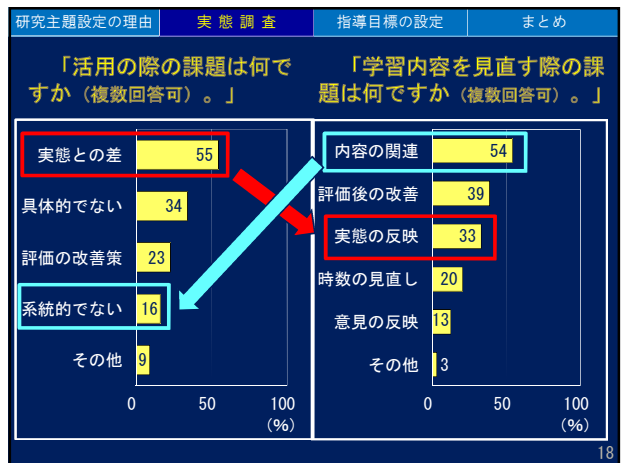
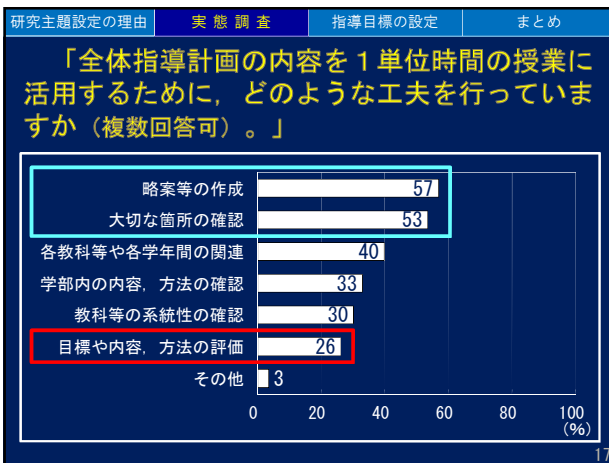
- ◆ 心理検査等の客観的な実態把握が必要
- ◆ 授業に生かせる具体的な目標設定が必要

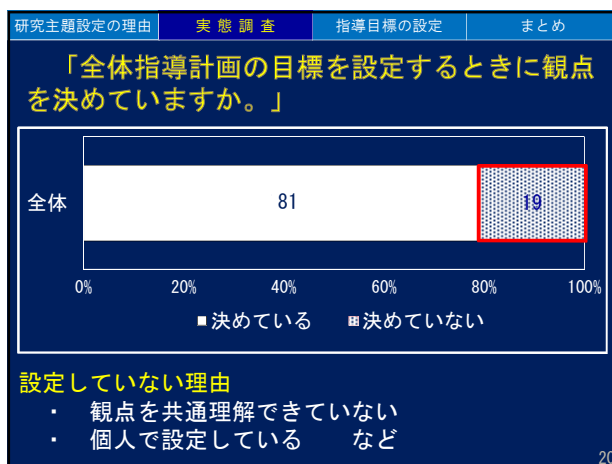
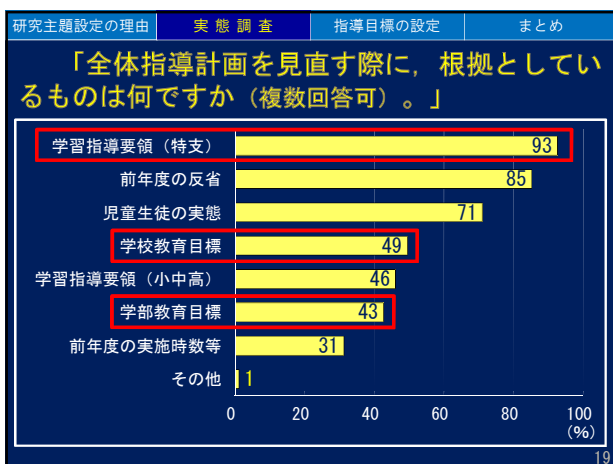
15

研究主題設定の理由 実態調査 指導目標の設定 まとめ

調査内容Ⅱ 「全体指導計画」について

16



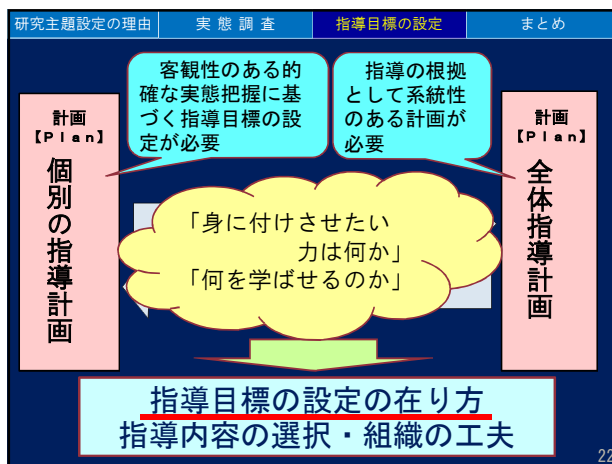


研究主題設定の理由 実態調査 指導目標の設定 まとめ

【全体指導計画】

- ◆ 観点を設定し、共通理解することが必要
- ◆ 根拠となる学習指導要領や学校教育目標等の共通理解が必要

21



研究主題設定の理由 実態調査 指導目標の設定 まとめ

実態把握の方法

個別の指導計画

- 行動観察
 - 主観的
 - 簡便に実施
- 心理検査等
 - 分析が難しい
 - 客観的 (発達の段階)
- チェックリスト
 - 活用が難しい
 - 学習の履歴


これらを組み合わせ、多面的に実態を把握することが大切

25

研究主題設定の理由 実態調査 指導目標の設定 まとめ

個別式の知能検査

WISC-Ⅲ知能検査



- 一人一人の全体的知能水準
 - 偏差IQ (同一年齢の中のIQ)
- 一人一人の知能構造
 - 知能の個人内差を、主として言語性知能と動作性知能という枠組みから判断

日本文化科学社 ホームページ から


26

研究主題設定の理由 実態調査 指導目標の設定 まとめ

個別式の知能検査

田中ビネー式知能検査V

幼児から成人までの知的水準や発達状態を明らかにすることができる。



田研出版 ホームページ から


27

研究主題設定の理由 実態調査 指導目標の設定 まとめ

発達検査

ムーブメント教育・療育プログラム アセスメント (MEPA-R)

子供の発達を3分野6領域にわたりチェック



日本文化科学社 ホームページ から

ムーブメント教育・療育プログラム アセスメント (MEPA-II)

子供の発達を姿勢・移動・操作の感覚運動分野とコミュニケーション分野の2分野4領域にわたりチェック

28


研究主題設定の理由 実態調査 指導目標の設定 まとめ

発達検査

新版 ポーテージ早期教育プログラム

達成した項目を時間を追って記録することで、発達の様子を一目して分かることができる。

576の行動目標が「乳児期の発達」, 「社会性」, 「言語」, 「身辺自立」, 「認知」, 「運動」の領域に年齢順に配列



ポーテージ協会 ホームページ から

29


研究主題設定の理由 実態調査 指導目標の設定 まとめ

発達検査

遠城寺式乳幼児分析的発達検査

子供の発達を3分野6領域にわたりチェック

- 運動
 - 移動運動
 - 手の運動
- 社会性
 - 基本的習慣
 - 対人関係
- 言語
 - 発語
 - 言語理解



慶應義塾大学出版社 ホームページ から

30

研究主題設定の理由 | 実態調査 | 指導目標の設定 | まとめ

発達段階を踏まえた目標設定の例

「発達段階」を踏まえて、実態把握をすればいいのでは。

Aさんは、3歳後半～4歳前半、Bさんは、3歳前半の発達段階みたい。

3歳前半	3歳後～4歳前半
○ 数の理解では、 <u>3</u> 個までの数唱、 <u>選択</u> 等ができる。	○ 数の理解では、 <u>4</u> 個までの数唱、 <u>選択</u> 等ができる。

37

研究主題設定の理由 | 実態調査 | 指導目標の設定 | まとめ

発達段階を踏まえた目標設定の例

Aさんは、3歳後半～4歳前半、Bさんは、3歳前半の発達段階ですね。

変更

できた！分かった！

個人目標

Aさん	積み木を <u>5</u> 個数える。
Bさん	積み木を <u>4</u> 個数える。

38

研究主題設定の理由 | 実態調査 | 指導目標の設定 | まとめ

新しい力の獲得 (質的伸長)

タテへの発達

力の拡充 (量的拡大)

ヨコへの発達

田中昌人の可逆操作の高次化における階層一段階理論より

39

研究主題設定の理由 | 実態調査 | 指導目標の設定 | まとめ

自閉症や障害が重度・重複している場合、新しい力の獲得に時間が掛かる。

タテへの発達

繰り返してできる。いつでもできる。誰とでもできる。どこでもできる。

ヨコへの発達を踏まえた目標設定も重要

ヨコへの発達

40

研究主題設定の理由 | 実態調査 | 指導目標の設定 | まとめ

行動観察の視点から

行動観察は、主観的にならないような工夫が必要

客観的な行動観察を行うための工夫の一つとして、課題分析を活用した目標設定

41

研究主題設定の理由 | 実態調査 | 指導目標の設定 | まとめ

行動観察の視点から「手を洗う」

	項目	実態
1	蛇口をひねって水を出す。	
2		
3	泡立てる。	
4	両手をこすり合わせる。	
5	石けんを洗い流す。	
6		
7	タオルで拭く。	

(指導資料「特別支援教育第176号」から抜粋)

42

研究主題設定の理由 | 実態調査 | 指導目標の設定 | まとめ

課題分析を活用した目標設定の例

【日常生活の指導において】
個人目標

一人で手を洗うことができる。

写真カードを見て、石けんを適量手に付けることができる。

言葉掛けを基に、水を止めることができる。

課題分析を活用することで、
目標が明確になる。

43

研究主題設定の理由 | 実態調査 | 指導目標の設定 | まとめ

「学習の履歴」の例

学習指導要領の内容の一覧

個別の教育支援計画

個別の指導計画

指導要録

通知表

チェックリスト

その他、引継資料等

44

研究主題設定の理由 | 実態調査 | 指導目標の設定 | まとめ

「学習の履歴」の例

- 何を学んで
- 何を学ばなかったのか
- できるようになったこと
- できなかったこと

などを把握

↓

目標設定

45

研究主題設定の理由 | 実態調査 | 指導目標の設定 | まとめ

「指導目標の設定」に当たって

客観的な実態把握

- 心理検査等
- チェックリスト
- 課題分析 など

学んできたことの把握

- 学習指導要領内容一覧
- 個別の指導計画
- 通知表 など

発達の段階

学習の履歴

設定した目標を教師間で共通理解

46

研究主題設定の理由 | 実態調査 | 指導目標の設定 | まとめ

1年次研究のまとめ

- 実態調査により、各学校の指導目標の設定及び指導内容の選択・組織に関する課題が明らかになった。
- 指導目標設定の具体例を示すことができた。

2年次研究に向けて

- 指導内容の選択・組織の工夫について明らかにする。

47

【平成26年度調査研究発表会】
第7分科会（特別支援教育）

特別支援学校における一貫性・系統性のある指導の在り方に関する研究Ⅱ

～知的障害のある児童生徒の指導目標の設定及び指導内容の選択・組織の工夫～

鹿児島県総合教育センター

48

知的障害のある生徒の国語科における授業実践 ～チェックリストを活用した目標設定の工夫～

県立指宿養護学校
教諭 上温湯 晋

1 はじめに

生徒の自立と社会参加を目指し、国語科の授業においても「今、何を教えるか」ということを常に自問しながら、授業実践を行っている。特別支援学校学習指導要領解説総則等編の段階的に示されている内容に基づき指導を行っているが、生徒の障害が重度化、多様化してきている中、一人一人に応じた現在の指導目標を設定していくことは、難しい状況にある。一人一人に応じた適切な指導目標を設定していくためには、それぞれの実態をどのように捉えていくかに大きく関わる。

そこで今回、高等部国語科の授業実践において、生徒に教えるべき内容の精度を上げていくために県総合教育センターの「子供をよりよく理解するための国語、算数・数学チェックリスト」の活用を試みた。



2 生徒の実態

(1) 対象グループの国語科の実態

対象とする授業グループは、高等部1，2年生の5人の構成である。

生徒たちは、聞く場面においては、話し手に注意を向けたり、話の内容を理解したりすることに課題があるものの、注意喚起を行い、短く指示を伝えることで理解して行動に移すことができている。話す場面において、意思表示が難しかったり、話の内容が伝わりにくかったりすることに課題があるが、帰りの会や作業学習での反省等のパターン化した発表では主体的に活動できる様子が見られる。読む場面においては、拾い読みや、「誰が」、「いつ」、「どこで」の質問に答えることが難しいなどの課題がある。しかし、事前に練習を重ねることで流ちょうに読むことができたり、イラスト等の手掛かりがあると質問に答えたり、生徒によっては生活でよく使う漢字のある文章も読んだりする。書く場面においては、作文や日記は難しく、内容について主述の関係や助詞の使用等、文法に関する学習に課題があるものの、手本等があると意欲的に書くことができる。

(2) チェックリストを活用した実態把握

対象グループの生徒に対して、県総合教育センターのチェックリストによる実態把握を担当と教科担当で行った。一人でできることは「○」、教師の何らかの支援等によりできることは「△」、難しいものは空白とした。その際、評価項目の内容を日常生活や学習で観察される生徒の行動や実施済みの知能検査等と照らし合わせて実施した。チェックリストの結果は、図1に示したように、できていることと、できないことが分かるように一覧表にした。その結果から、生徒たちの国語の獲得された力は、就学前から小学校低学年の範囲に点在し、個人差や個人内の各領域の差

も大きい状況であることを捉えることができた。領域間差については、ほとんどの生徒において「聞く」、「話す」領域に比較して、「読む」、「書く」領域の能力が高い傾向が見られた。

以上の結果から、指導内容は、就学前から小学校低学年の内容について、選択・組織することが妥当であると考えた。

図1 チェックリストの結果一覧表

(3) 個別の指導計画

本校の個別の指導計画は、各指導の形態の指導目標等に加え、児童生徒の学びを生活につなげていくために意図をもった生活や発達の領域から導かれる重点目標、学習や生活の全般に共通して必要とされる支援・配慮の項目で構成されている。これらの情報も踏まえながら、授業づくりに取り組んだ(表1)。

表1 個別の指導計画の生徒Aの情報(一部抜粋)

年間目標 関連する支援	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞いて、人の名前や物の名称の質問に、大きな声で答えることができる。 身近な物の名称を漢字で書くことができる。 身近な話題の文章を読んで、内容に関する人や物、心情について理解することができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 学習への集中を促すために、「今は〇〇の時間です。」「今することは何ですか。」という言葉掛けをして意識できるようにする。 丁寧な言葉遣いを確認するために、「〇〇です。」「〇〇します。」の語尾が抜けるときは、教師と一緒に言い直して自分の話し方を振り返ることができるようにする。 友達との関わりを深めるために、「〇〇さんに聞いてみましょう。」「〇〇さんと一緒にしてみましょう。」という言葉掛けをして、会話の場面や関わる機会をつくるようにする。

3 題材について

本題材「お世話になった人に年賀状を書こう」は、特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部）の内容にある1段階(4)「手紙や日記などを目的に応じて正しく書く。」に相当し、「書く」領域を中心とした学習活動である。

生徒たちは、これまでに産業現場等における実習を経験しており社会性が広がっていることから、相手を意識した文章表現を学ぶ点でも適切である。

具体的には、お世話になった人を意識し、宛先や自分の住所、名前のほか、新年を祝う言葉やお礼、近況報告の文章、敬語といった内容について、他者との言語を通したやりとりや文章表現、漢字の書字の既習内容を生かして発展的に学習することができる。

また、時節に関連する内容でもあり、季節的な事柄についての理解を高めることができるとともに、生活につなげやすい題材である（表2）。

表2 題材「お世話になった人へ年賀状を書こう」指導計画

次	主な学習活動・内容	時数	備考・準備
一	1 年賀状の意味(書く理由)や書式、気を付けることについて知る。 (1) 書く目的を知る。 「新年を祝う」、「感謝の気持ちを伝える。」、「近況を伝える。」 「幸せを祈る」、「仲よくすることを願う。」 (2) 書く相手を考える。 ・ お世話になった(なっている)人など (3) 書く内容を知る。 ・ お祝いの言葉 ・ お礼の文 ・ お知らせの文 ・ お願いの文 ・ 日付 ・ 宛先(郵便番号, 住所, 宛名, 敬称) ・ 差出人(郵便番号, 住所, 名前) (4) 気を付けることを知る。 ・ 目上の人への言葉遣い, 書式, 相手への気持ち ・ 文字の大きさ, バランス ・ 喪中, 入院中等不幸のあった方 (5) 宛先の住所等を調べる。 ・ 産業現場等における実習先 ・ 学校 ・ その他	1	・ プレゼンテーション ・ ワークシート
二	2 年賀状の内容を考える。 (1) 年賀状の内容を確認する。 (2) 年賀状を書く練習をする。 (3) 練習した年賀状を全員で確認し、評価する。	2 (本時)	・ 練習用紙 ・ 筆記用具
三	3 年賀状を清書する。 (1) 「一年間の目標」を考える。 (2) 目標を確認し、下書きする。 (3) 清書する。 (4) 全員で確認し、評価する。	2	・ 練習用紙 ・ 年賀はがき ・ 筆記用具

4 実際（総時数5時間）

(1) 題材における全体目標及び個人目標

ア 全体目標

年賀状について考え、書くことを通して、相手を意識した文章の内容や言葉遣いの理解を深め、分かりやすく丁寧に書くことができるようにする。

イ 個人目標

生徒	個人目標
A	ワークシートを手掛かりに、目上の人に対する文を考え、文字の大きさやバランス、配置を整えて書くことができる。
B	ワークシートを手掛かりに、自分の気持ちを伝える適切な文や目上の人に対する文を考え、文字の大きさやバランス、配置を整えて書くことができる。
C	手本や文字枠を手掛かりに、平仮名や簡単な漢字の大きさを考え、正確に視写することができる。
D	手本を手掛かりに、平仮名の大きさ等見やすさを考えて、視写することができる。
E	文字カードや文字枠を手掛かりに、1文字ずつ意識して平仮名を丁寧に視写することができる。

(2) 本時の実際（2／5）

ア 全体目標

読みやすく分かりやすい文字になるように、文字の大きさやバランスを整えて書くことができるようにする。

イ 個人目標及び学習の様子

生徒	個人目標
A	教師の指導・支援を受け、丁寧な文字を書いたり、適切に文字を配置したりして、年賀状を書くことができる。 〈学習の様子〉 教師の説明を聞いたり、自分の書いた文を見たりして、「まっすぐ書きます。」と発表することができた。
B	友達や教師の意見を聞いたり、文例を参考にしたりして、丁寧な文字を書いたり、適切に文字を配置したりして、年賀状を書くことができる。 〈学習の様子〉 自分の書いた文の誤字や脱字に気付いて、訂正をすることができた。
C	教師の指導・支援を受け、文字カードを手掛かりに、適切な文字の大きさや誤字、脱字に気を付けて、年賀状を書くことができる。 〈学習の様子〉 練習用紙の枠からはみ出して書いていた。自分の書いたものを全体で確認した際に、自分でその部分が分かるなど、自己評価ができた。
D	教師の指導・支援を受け、文字カードを手掛かりに、見やすい文字の大きさや線の濃さ、文字の脱字に気を付け、年賀状を書くことができる。 〈学習の様子〉 挨拶の文字の大きさや配置について教師と一緒に確認し、文字カードを正しい位置に置くことができた。
E	友達や教師の意見を聞いたり、文字カードを手掛かりに1文字ずつ教師と確認したりして、見やすい文字の大きさを意識して1文字ずつ書くことができる。 〈学習の様子〉 文字カードを手掛かりに、書き上げた。振り返りの際に、重複する文字に気付いていた。

過程	学習活動	指導及び支援上の留意点
<p>導入 (5)</p>	<p>1 始めの挨拶をする。</p> <p>2 本時の学習について知る。 「年賀状を丁寧に書こう」</p> <div data-bbox="236 481 726 750" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2 確認しよう</p> <p>(1) 大きさ</p> <p><input type="checkbox"/> 大きすぎる</p> <p><input type="checkbox"/> 小さすぎる</p> <p><input type="checkbox"/> 大きかったり、小さかったりする</p> <p>(2) まっすぐ</p> <p><input type="checkbox"/> なまめになっている</p> <p>(3) よみやすさ 分かりやすさ</p> <p><input type="checkbox"/> よみにくい</p> <p><input type="checkbox"/> 分かりにくい</p> <p>(4) 位置</p> <p><input type="checkbox"/> 高すぎる</p> <p><input type="checkbox"/> 低すぎる</p> <p><input type="checkbox"/> ちがう</p> <p>(5) ていねいさ</p> <p><input type="checkbox"/> 「けんきだよ」「よろしくね」などの友達への挨拶を忘れることを決めよう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習内容を思い出すことができるように、教師の質問に答えたり、学習ファイル(ワークシート)を見たりするように言葉掛けをする。 本時の学習目標を意識して取り組むことができるように、学習活動や学習目標を板書し、生徒が音読できるようにする。 <div data-bbox="758 504 1428 761" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div>
<p>学習課題について、具体的な選択項目にして個人目標設定につなげやすくする。</p>		<p>ワークシートの各項目の内容について、具体的に範例を提示する。</p>
<p>※1 チェックリストから推測される発達の段階から、具体的な活動や内容の提示などの支援が必要であると考えた。</p>		
<p>展開 (35)</p>	<p>3 年賀状の下書きをする。</p> <div data-bbox="327 1153 1428 1400" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に活動できるように、参考にする見本を提示したり、机間指導し、個別に質問に答えたりする。また、姿勢や鉛筆の持ち方について、意識して正すように、随時言葉掛けなどを行う。 <div data-bbox="470 1377 1428 1478" style="border: 2px solid green; padding: 5px;"> <p>生徒の実態に応じて、文の内容、使用する文字(平仮名、漢字)、手本、文節カード、教師の働き掛けを検討した。</p> </div>
<p>※2 チェックリストの結果から、獲得している文字や文章理解の段階を踏まえ、年賀状の内容を検討した。</p>		
	<p>4 年賀状の下書きを全員で確認する。</p> <div data-bbox="327 1668 734 1904" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の下書きのよい点や改善点を確認できるように、モニターで見ながら「文字の大きさ」や「分かりやすさ」など、観点ごとに意見を述べるようにする。その際、発表する生徒はチェックシートで友達の意見をチェックするようにする。 相手がもらってうれしい、丁寧に書いた年賀状を書くことができるためのチェックシートを参考に、練習した年賀状を確認する。
<p>終末 (5)</p>	<p>5 学習のまとめをする。</p> <p>6 終わりの挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次時への見通しをもつとともに、意欲を高めることができるように、次時の学習活動を確認する。

(3) 評価及びチェックリストの活用について

チェックリストの活用にあたっては、チェックリストによる実態把握から授業につながる具体的な目標を設定し、授業実践を行った。その授業実践を評価・改善し、年間目標、重点目標等の評価・改善を行っている。そのことに加え、チェックリストに示される生徒の実態の評価・改善まで反映されることが望ましいと考えた。本題材での生徒の学びを考察し、チェックリストへの反映を検討したものを表3に示す。

表3 評価及びチェックリスト等の活用について

生徒	評価及びチェックリスト等の活用について
A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年間目標（以下「上位目標」）や重点目標から、「場や相手に応じた言葉遣い」、「身近な物の名前を漢字で書く」に関連する。 ○ 本題材において、手本等を手掛かりに、敬体文や漢字の書字を学ぶことができた。 ○ チェックリストは、事柄の順序を考える文を構成する力（「話す」小2③）や相手に応じて丁寧語を使う（「話す」小3④）、配当学年漢字の書字の評価の根拠として活用できた。
B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上位目標における「語い力とコミュニケーションの向上」、「漢字の書字」に関連する。 ○ 本題材において、誤字・脱字に気付き、訂正して清書することができた。また、手本等を手掛かりに、相手に応じた敬体文や文の内容を学ぶことができた。 ○ チェックリストにおいては、第3学年配当漢字（「書く」小3②）、順序に沿って文章を書く（「書く」小1⑥）内容が指導目標になることとして確認できた。
C	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上位目標における「身近な漢字の読み書き」、「丁寧文の使用」に関連する。 ○ 本題材において、文節カードを手掛かりに、年賀状の平仮名文を丁寧に書くことができた。 ○ チェックリストにおいては、第1学年相当漢字（「書く」小1②）や特殊音節の理解（「書く」小1③）の内容が指導目標になることとして確認できた。
D	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上位目標における「身近な物の名前を漢字で書く」ことや「敬体の文を適切に使う」ことができることに関連する。 ○ 本題材においては、手本を手掛かりに、小学校低学年に相当する漢字を使い、年賀状の敬体文を書くことができた。 ○ チェックリストにおいては、書くことに興味をもつ（「書く」5～6①）、小学校低学年の漢字に触れる（「書く」小1②、小2②）ことが指導目標として確認できた。
E	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上位目標における「名前を漢字で書く」ことや「敬体の文を適切に使う」ことができることに関連する。 ○ 本題材において、1文字ずつ確認することを手掛かりに、平仮名の敬体文で年賀状を書くことができた。 ○ チェックリストにおいては、第1学年配当漢字（「書く」小1②）が指導目標として確認できた。

5 まとめ

本題材を通しての成果と課題について、以下に述べる。

【成果】

- チェックリストを活用し、生徒の実態把握をしたことで、教師間で共通した視点を基に指導目標を検討することができた。また、チェックリストを活用することで、学習集団に関わる教師全員が、生徒の姿や行動、学習状況を発達の段階から捉えようとする意識が高まった。
- チェックリストの結果を集約し一覧表に示したことで、生徒が獲得している力が簡便に確認でき、獲得している力の活用や指導目標について検討しやすくなった。そのことで、生徒一人一人について発達の段階を踏まえた具体的な目標が設定できるようになった。

【課題】

- チェックリストの評価項目に示される「簡単な」や「だいたい」などの表現については、評価基準が曖昧であり、評価が難しい項目があるので、評価項目が示す発達の段階を整理する必要がある。
- 知的障害の障害特性から、評価がしにくいところがあるので、評価基準とともに学習指導要領等の内容を参考に、内容を明確に整理しておく必要がある。

生徒一人一人に応じたより適切で具体的な目標設定をしていくために、国語科に関する実態把握において、県総合教育センターのチェックリストの活用をした。生徒の具体的な姿を評価しにくい項目があり、教師自身が内容の発達の段階について十分な理解があるとより適切に評価ができるのではないかと感じる場所があった。

一方で、発達の段階から、生徒が国語科に関して、これまで何を学んで、何を学ばなかったのか、できるようになったこと、できなかったことなどを把握することができるようになったとともに、生活年齢を踏まえて学ぶべき内容についての根拠を整理しやすくなった。また、生徒の姿や行動から、その意味を考えるようになり、教師の専門性として実態を見取る力を深められることが期待される。